

和の光

宝塚市立西谷中学校



■防災学習の感想

1月16日の防災学習では、吉田先生（西谷中学校）と尾山先生（西谷小学校）から阪神・淡路大震災を経験した話を聞かせていただきました。また、地震が発生したと想定した避難訓練や実技講座（新聞紙を使った防災スリッパづくり）なども行いました。これらを通して生徒の皆さんが感じたことを下記に紹介させていただきます。

- ★今回の阪神・淡路大震災の話聞いて、地震に限らず自然災害は本当に怖いと思いました。亡くなった人々は何も罪を犯していないのに、ガレキに挟まれて苦しんだりして本当に気の毒だと思いました。震災の後には限られたものしか食べられず、苦しい生活をしなければならなかったことも知りました。僕が聞いた話の中で一番印象に残っていることは、震災の後にボランティアの方が食べ物を分け与えていたことです。そのおかげで、被災した人の心が温まったんだろうなと思いました。（男子生徒）
- ★今日、尾山先生と吉田先生から阪神・淡路大震災の体験談を聞きました。心に残ったことは、震災の悲惨さです。僕は震災を経験していませんが、先生のお話が聞いて震災の怖さが良く分かりました。当時の事を思い出すのは辛いと思うのに、僕たちのために話していただき有難うございました。（男子生徒）
- ★阪神・淡路大震災の映像を見ると、大きな揺れでたくさんの橋や建物が壊れたりして、怖いなと思いました。また、地震がいつ起きるか分からないので、防災の準備はしっかりとしておこうと思いました。（男子生徒）
- ★実際に阪神・淡路大震災を経験した先生方のお話を聞いて、改めて災害が起きた時の行動、減災のために自分ができることを考えさせられました。特に印象に残ったのは尾山先生のお話に出てきた「天災は忘れたところにやってくる」という言葉です。ハッとさせられたし、「確かに、この時期（1月17日）は災害に備えることを意識するけれど、実際はみんなが忘れたところに悲劇は起きるな」と思いました。「あの日」から31年。亡くなられた方の分、自分が命のバトン、あの日の事を繋いでいきたいです。（女子生徒）
- ★私は阪神・淡路大震災を経験していないので話でしか知らないけれど、先生方の話を聞いて、防災バッグなどを備えておくことがとても大切なことだと思いました。また、その当時自分たちと同じような年代の人が亡くなったという話を聞いてとても胸が苦しくなりました。（女子生徒）
- ★建物などが崩れて中に閉じ込められた人を必死に助けようと頑張った人がいたことを知りました。印象に残ったことは、「家族と食事をしたり友達と遊んだりすることは当たり前の事ではなく、感謝すべきこと」だということです。自分の身体は自分で守らなければならないことが分かりました。（男子生徒）
- ★体験談を聞いて、実際に自分が体験したわけではないけれど、どれだけ大変で悲しい思いをされたのかが良く分かりました。私たちの日常生活が当たり前ではないことが分かりました。毎日ご飯が食べられて、温かいお風呂に入って温かい布団で眠れるということが、どれだけ幸せなことが良く分かりました。私の家は防災リュックなど準備していないし、地震が来た時にどのように対応する

のかを決めていないので、避難訓練をきっかけに家族としっかり話しておこうと思います。

（女子生徒）

- ★今後いつ地震が起きてもおかしくないのに、いつ起きてもいいように僕は防寒具などを用意しておこうと思いました。震災で亡くなった方々と自分は関係がないとは思わずに、震災のことは一生忘れないようにしたいです。（男子生徒）
- ★僕は今回聞いたお話を忘れずに、命の大切さや家族への感謝の気持ちをしっかりと持って生活していきたいです。また、地震が起きた時には先生のお話を思い出して、命が助かるようにします。（男子生徒）
- ★私の家では災害が起きた時にどうするかなど、家族での話し合いが足りていないな、と感じたので今日家に帰ったら早速話し合ってみようと思いました。西谷は特に地域の繋がりが強く、皆で助け合って生活していると思うので、日々の地域交流（お祭りなど）を大切にしていきたいです。（女子生徒）
- ★私の家には防災バッグが一応あるのですが、中身がきちんとあるのか分からないので確認しておこうと思いました。また、地震があったらどこに避難するのかを話し合っていないので、家に帰ったら家族と話し合ってみようと思いました。（女子生徒）
- ★今日、先生の話聞いて地震への備えをしようと思いました。例えば食べ物や水、エチケット袋や生活用品などを準備したいと思います。災害の時には、自分の身体を守りつつ人も助けようと思いました。（男子生徒）
- ★大きな地震が起きると物が落ちてきたり、タンスや棚が倒れたりしてくる可能性があるから突っ張り棒を使って固定したり、自分の部屋の荷物をできるだけ減らしたりと、いろいろ工夫したいと思いました。また、防災リュックを準備したり、ベッドの側に靴下を置いたりしたいと思いました。（女子生徒）
- ★昨日までの当たり前前日常が一瞬にして奪われてしまったという現実があったことに驚きを感じました。小学校の尾山先生と中学校の吉田先生の話聞く中で、大切な人を失った人の思いを感じました。そして、「自助」「共助」「公助」の大切さを改めて実感しました。耐震基準の重要性や家具の固定といった備えも大事にしたいと思います。（男子生徒）
- ★これまで防災意識なんて他人事と思っていました。今回の学習を通して、「自分の命は自分で守る」ことの大切さを実感しました。人とのコミュニケーションや繋がりを大切にして生きていきたいと思います。（男子生徒）
- ★震災の体験談を聞いて印象に残ったのは、地域の人たちが協力しながら建物の下敷きになった人を助ける姿です。消防隊でなくても、みんなで力を合わせると助かる命があるのだなと思いました。大震災が起きた時には自分も力を合わせて助けていきたいです。（男子生徒）
- ★今後は家具の固定や防災リュックの整理をして、いざという場合に備えておきたいです。（男子生徒）
- ★大きな地震は体験したことがないので、体験者ほどその怖さは分かりません。でも、当たり前前日常が数十秒で壊れるぐらい怖いものだと思います。去年もお話を聞いたけれど、ネットで見るより、直接体験談を聞いたほうがより地震の怖さが分かったので、とても良い機会でした。（女子生徒）
- ★震災の体験談は何度も聞いたことがあるけれど、何度聞いても震災は怖いものだと思います。尾山先生の話は内容がとても悲惨で、地震が起きた際に人が亡くなることもあるんだと痛切に感じました。それから吉田先生の言っていたとおり、私はなんとなく大きな地震を他人事のように思ってい

ましたが、大きな地震はいつくるか分からないので、現実をしっかりと見直していきたいです。

(女子生徒)

- ★自分が今当たり前にしていることは、こういった大きな震災があれば、当たり前ではなくなるということを知りました。なので、これからも自分の命などは大切にしていきたいと思いました。私は初めて新聞紙でスリッパが作れることを知りました。新聞紙はいろいろなことに使えることを知り、防災バッグに入れておいた方が良いと思いました。(女子生徒)
- ★当たり前だと思っていた日常が一瞬にしてなくなることを知って、とても残酷な印象を受けました。尾山先生の話の中で、身近な人たちが亡くなったことを聞いて、僕は生きているからこそ一日一日を大切に感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思いました。(男子生徒)
- ★自分はまだそんなに大きな震災にあったことはないけれど、写真や動画、先生方の話を聞いてみると、自分だったら怖くてその場から動けずに泣いてしまうと思います。人生が終了するまで絶対に震災にはあいたくないと思いました。あと、今の自分の環境に感謝したいです。(女子生徒)
- ★阪神・淡路大震災の話を聞いて印象に残ったことは、建物の下敷きになった母親とその子供のことです。大震災が起こった時に耳にする話ですが、実際に目の前で話を聞くと、なんとも言い難い悲しさがこみあげてきました。僕たちは、この悲しさを忘れることなく、後世に伝えることが大切だと思います。(男子生徒)
- ★これまでの人生の中で、いろいろな体験談を聞いてきましたが、何回聞いても、いつ来るか分からない天災は怖いものだと感じました。30年以内に60～90%の確率で南海トラフ巨大地震が来ると言われ、他人事とは思わずに、常日頃からできる防災対策を心掛けていこうと思いました。

(女子生徒)



震災を通して感じたこと (吉田先生)



震災を通して感じたこと (尾山先生)



真剣に講話を聞きます



身体を守りながら避難

- ★阪神・淡路大震災は怖いものだと思っていたけれど、今日の体験談を聞いて地震の恐ろしさを改めて知ることができました。(男子生徒)



小学生と中学生で協力して防災スリッパづくり

- ★阪神・淡路大震災の体験談を聞いて、たくさんの方がけがをして、亡くなった人もいれば行方不明になって未だに見つからない人がいて阪神・淡路大震災がすごく怖いものだったと思った。新聞紙を使って防災スリッパをつかったので、作り方を覚えておいて、災害の時にガラス片などを踏まないようにしたいです。(女子生徒)
- ★防災バッグは家にあるけれど家族の分はないので、家族分の防災バッグや防災グッズを買って、家族と自分が困ることがないようにしたいです。(男子生徒)
- ★阪神・淡路大震災は31年前のことであまり想像できませんでしたが、今日の体験談を聞いて改めて大変なことが起きたと知りました。防災バッグの保管場所確認や本棚の固定をしようと思いました。(男子生徒)
- ★体験談を聞き、最も印象に残ったことは命があることが当たり前ではないということです。自分が経験していないので分かりにくいことかもしれませんが、理解していきたいです。阪神・淡路大震災など大きな災害があったことを忘れてはいけなかったと思います。そして、「語り継ぐ」ことが大切だと気づきました。(女子生徒)
- ★震災の時に倒壊した家屋の下から人をたすけるためには、普段から地域住民のコミュニケーションが重要だと思いました。生徒が震災で亡くなるということは、生徒全員がつらい思いをすと思いました。(男子生徒)
- ★阪神・淡路大震災の体験談を聞いて、特に印象に残ったのは、身近な人が目の前で命を落としてしまうことが、いたるところ起きていたという話です。自分の目の前でそういう悲惨な出来事が起きたら、焦ってしまって何もできないと思いました。どんなに助けを求めても助けが来ないし、時間も戻らない現実が怖いと感じました。もしもの時には、自分ができる限りのことをして、周りの人を助けられるように行動することが必要だと感じました。そのためには、普段からの備えと、何かあったときにどう動くかを考えておくことが大切だと思います。(女子生徒)
- ★新聞紙で簡単に履物がつくれるので、くつやスリッパが無くても震災の時には安全に行動できると思いました。(男子生徒)
- ★地震はいつ起こるか分からないので怖いと感じました。新聞紙でいつでも防災スリッパをつくれるようにしておきたいです。(男子生徒)
- ★僕は地震の怖さを改めて知ることができました。地震は一瞬にして人々の命を奪うので恐ろしいものだと思います。建物が崩れるだけでなく、火事や津波、電気が使えなくなるなど、いろいろなことが起きるので、対策をしなければいけないと思いました。僕は、タンスなど倒れやすいものは工夫して倒れないようにしようと思いました。また、防災バッグは必ず必要だと感じました。このような行動が命を助ける一つの行動なんだと思いました。(男子生徒)
- ★みんなで助け合うことは良い事だと思いました。避難訓練は大切なことだと気が付きました。

(男子生徒)